

科目名	科目担当代表教員	ページ数
英語文献翻訳実践演習B	渡部 淳	2
研究方法論A	高橋 保夫	7
研究方法論A	渡部 淳	12
研究方法論A	魯 諍	17
研究方法論A	小西 正人	22
研究方法論A	Richardson Peter	27
特別課題研究Ⅱ	Richardson Peter	32
特別課題研究Ⅱ	渡部 淳	39
特別課題研究Ⅱ	岡本 佐智子	46
特別課題研究Ⅱ	高橋 保夫	53
特別課題研究Ⅱ	魯 諍	60
特別課題研究Ⅱ	小西 正人	67
国際関係論特別研究Ⅱ	渡部 淳	74
中国学特殊研究Ⅱ	野間 晃	79
中日言語文化特別演習Ⅱ	魯 諍	84
日中言語文化特殊研究	魯 諍	89

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 英語・英米文化コミュニケーション領域					
科目名		英語文献翻訳実践演習B				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語能力を身につけるための科目である。「英語文献翻訳実践演習A」と関連する科目である。							
授業の概要							
現代日本・東アジアなど事例の日本語の文献を実際に英語に翻訳する中で、学術文献の理解を実践的に学ぶ科目である。							
到達目標							
各種学術文献を自分の力で理解し、適切に翻訳することができる。そしてそれにし上がった議論を組み立てることができる。							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の研究分野に関連する学術文献を選定し翻訳する。 ・学生は指定された文献の指定された箇所を毎回実際に翻訳してくる。 ・授業では、学生が提出した翻案をクラス全体で議論しながら、修正し理解・翻訳の技能を会得する。 							
ICT活用							
翻訳のリソースとしてweb上のドキュメントを使うことがある。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
各回の授業内で、各自の提出課題に対して適切な指導とアドバイスをを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション 授業内容、進め方などについての説明。	シラバスをよく読み、授業内容と進行に必要な知識を学習しておく。(90分)	オリエンテーションの内容を復習し、自分の研究分野や研究対象を整理する(90分)
担当教員			
第2回	・各学生の研究分野の共有 各学生が大学院でどのような研究関心を持っているのかをプレゼンしてもらい、翻訳する文献の選定を行う。	自分の研究分野や対象についてのプレゼンテーションの準備を行う(90分)	授業中に提示された文献について自らリサーチを行い、自分に合った文献の種類やレベルを絞り込む(90分)
担当教員			
第3回	・文献翻訳実践演習1 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	・文献翻訳実践演習2 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	<p>・文献翻訳実践演習3 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
担当教員			
第6回	<p>・文献翻訳実践演習4 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
担当教員			
第7回	<p>・文献翻訳実践演習5 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
担当教員			
第8回	<p>・文献翻訳実践演習6 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
担当教員			
第9回	<p>・文献翻訳実践演習7 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
担当教員			
第10回	<p>・文献翻訳実践演習8 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。</p>	<p>指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)</p>	<p>自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)</p>
担当教員			

第11回	・文献翻訳実践演習9 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員			
第12回	・文献翻訳実践演習10 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員			
第13回	・文献翻訳実践演習11 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員			
第14回	・文献翻訳実践演習12 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳を試みる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめと講評 各学生のこれまでの翻訳を振り返り、各自の翻訳の特性や問題点などを整理・指摘し、今後の学術文献翻訳へのアドバイスをを行う。	これまでの自分の翻訳を振り返り、自己評価を行う。(90分)	授業での指摘やアドバイスを自分なりにまとめ、今後の翻訳の指針となるノートを作成する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席態度(20%) 課題の提出率(30%) 提出課題のクオリティー(30%) 議論参加への積極性(20%)

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>なし</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>術文献の理解と翻訳に真剣に取り組む、向学心の旺盛な学生を歓迎する。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論A(秋入学者用 高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより実際の作成時での注意点を学修する。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を迫体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『コピーと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論A(秋入学用 渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより実際の作成時での注意点を学修する。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を迫体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『コピーと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論A(秋入学者用 魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより実際の作成時での注意点を学修する。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を迫体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『コピーと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論A(秋入学用 小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより実際の作成時での注意点を学修する。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を迫体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版 『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋 その他、授業中に適宜指示する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『コピーと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社 『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房 『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房 その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		研究方法論A(秋入学者用 Richardson Peter)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
<p>論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何かを説明できる。 2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。 3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。 4. 先行研究を批判的に読むことができる。 5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。 							
授業の方法							
<p>配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習(体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換)を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。</p>							
ICT活用							
<p>メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのものであるかということを知る。	『新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文科学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目漱石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとでアウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより実際の作成時での注意点を学修する。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。(V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫)	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。(早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて一意味的な特徴を中心に」) これにより「文法知識」だけでなく、「問いー主張ー論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度(確認小テストを含む)40%、演習課題60%。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>授業中に適宜指示する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(春入学者用)(Richardson Peter)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分		単位	3
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
<p>優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅰ」を承ける形で連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。 2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。 5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。 							
授業の方法							
<p>基本的に個別指導で修士論文を完成してもらう。 受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。	中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)
担当教員			
第2回	第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。	論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)
担当教員			
第3回	1章から2章分を「完成」させるための指導を受ける。以前に提出したレポートと比較しながら、研究の深みが出ているか報告する。	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第4回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員			

第5回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員			
第6回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)
担当教員			
第7回	公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。	論文の8割以上、完成させておくこと(3時間以上)	副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)
担当教員			
第8回	発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第9回	発表会の予行演習を行う。論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)
担当教員			
第10回	発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。	論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)	構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)
担当教員			

第11回	修士論文の仕上げについて報告する。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)	論文の9割は見直しがおわっているようにする(90分以上)
担当教員			
第12回	各自が十分見直した上での論文を提出する。	論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)
担当教員			
第13回	修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)
担当教員			
第14回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			
第15回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)	論文提出後にも指導があるので、完璧な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)
担当教員			
第16回			
担当教員			

第17回			
担当教員			
第18回			
担当教員			
第19回			
担当教員			
第20回			
担当教員			
第21回			
担当教員			
第22回			
担当教員			

第23回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%	
その他	0		
教科書			
論文書式は研究テーマ領域の学会書式にならう。			
参考文献			
研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。			
履修条件・留意事項等			
週2回程度の授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること。			
備考欄			



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(春入学者用)(渡部 淳)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分		単位	3
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。「研究方法論A・B」「特別課題研究Ⅰ」の発展科目。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。 2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。 5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。 							
授業の方法							
基本的に個別指導で修士論文を完成してもらう。受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。							
ICT活用							
適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中間発表会に向けての準備(その1) 夏季休暇中の研究の進展を報告する。	進展報告をまとめる(90分)	指摘された箇所について調査・研究を進める(90分)
担当教員			
第2回	中間発表会に向けての準備(その2) 前回の指摘に応じた対応について報告する。	授業内発表の準備(90分)	中間発表会に向けてストーリーをまとめる(90分)
担当教員			
第3回	中間発表会に向けての準備(その3) パワーポイント発表に向けて基本的な事項を学ぶ	パワーポイントの使い方について復習をしておく(30分)	中間発表会に向けてスライドの基礎作成(150分)
担当教員			
第4回	中間発表会に向けての準備(その4) スライドを準備しながら内容と形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備(90分)	中間発表会用のスライドの準備(90分)
担当教員			

第5回	中間発表に向けての準備(その5) 発表用スライドを確認し、形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第6回	中間発表に向けての準備(その6) 発表の予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第7回	中間発表に向けての準備(その7) 前回の指摘を受け、再度の発表予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第8回	受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。	中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)
担当教員			
第9回	第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。	論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)
担当教員			
第10回	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員			

第11回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員			
第13回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)
担当教員			
第14回	公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。	論文の8割以上、完成させておくこと(180分以上)	副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)
担当教員			
第15回	発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第16回	発表会の予行演習を行う。論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)
担当教員			

第17回	発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。	論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)	構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)
担当教員			
第18回	修士論文の仕上げについて報告する。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)	論文の9割は見直しが終了しているようにする(90分以上)
担当教員			
第19回	各自が十分見直した上での論文を提出する(第一次提出)。	論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)
担当教員			
第20回	修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)
担当教員			
第21回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			
第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			

第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)	論文提出後にも指導があるので、完全な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)
------	--	----------------------------	--

担当教員

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	

教科書

使用しません。

参考文献

研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(春入学者用)(岡本 佐智子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分		単位	3
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
<p>受講生の研究対象とする各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている(知識・技能)ことを目的とし、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)ことを課する科目である。「研究方法論A・B」「特別課題研Ⅰ」に連動する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のために対面で具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを授業時まで提出し、助言や指導を受け、次回までに修正・加筆しながら研究を進めていく。毎回、論文の不備や問題点など、前回指導を受けた部分を修正・加筆し、さらに論文を書き進めた部分を助言・指導し、論文構成をみていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文提出日までに、論文にふさわしい内容で、3万字程度の論文を書くことができる。 2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 論文執筆や調査活動等、研究倫理を守ることができる。 							
授業の方法							
<p>基本的に対面の個別指導で、修士論文を完成できるように、研究の助言・指導を行っていく。受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、レポートにしたり論文にしたりして授業に臨み、指導を受けながら研究を深め、論文執筆を進めてもらう。</p>							
ICT活用							
<p>課題および課外の質疑応答はGoogle Classroomを活用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文に関する執筆物については、授業で加筆コメントを記すだけでなく口頭で補足指導する。課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて個別返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	受講生は修士論文の6割が完成していることを前提に、これまでの執筆部分を清書して提出し、助言・指導を受ける。	「特別課題研究Ⅰ」で修正・加筆を求められた部分は修正し、論文の6割を完成状態にしておくこと。(90分以上)	論文完成に向かっての今後の研究計画を立て、完成したところまでの論文を再度見直しておく。(90分以上)
担当教員			
第2回	論文作成の最終計画と経過報告を行う。資料収集が難しいものについては検討を行う。	論文を書き進め、7割完成に向かって書き進めておくこと(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第3回	論文の7割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。	新たな資料・参考文献をまとめながら、どんどん書いて7割完成に向かう。(90分以上)	指導を受けた部分を修正し、参考文献の追加をしておくこと。(90分以上)
担当教員			
第4回	論文のほぼ7割を完成し、中間発表を見据えた論文の焦点が十分かを再検討する。	論文の7割を完成させておくこと。(90分以上)	どんどん論文を7割「完成」に近づけ、中間発表の準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			

第5回	論文の7割完成のもと、指導を受ける。 論文の中間発表内容について説明し、構成・内容等の確認をする。	論文の中間発表用レジュメを作成しておくこと。(90分以上)	論文をどんどん書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第6回	これまでに書けた論文(70%以上)の内容について質疑応答し、助言・指導を受ける。 中間発表内容についてチェックを受ける。	中間発表用のスライドを作成しておく。 論文の8割完成に向かって、書いていく。(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておく(90分以上)
担当教員			
第7回	論文の8割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。	論文の8割の完成に向かって、どんどん書いていく。(90分以上)	副指導教員にも研究内容等の指導を受け、再考しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第8回	論文の8割完成に向かって、書けたところまで指導を受ける。 また内容・構成について再検討していく。	どんどん書いていく。(90分以上)	新たな引用・参考文献の整理をしながら、どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第9回	論文がほぼ8割完成していることを前提に指導を受ける。	論文を8割完成させる。(90分以上)	指導を受けた部分の修正・補足しておく。
担当教員			
第10回	論文の8割が完成し、さらに書けたところまで指導を受ける。	論文の8割を「完全」に完成させておく。(90分以上)	再度論文全体の見直しをして、修正・補足しておく。(90分以上)
担当教員			

第11回	論文の9割完成に向かって、書けたところまでの指導を受ける。	論文をどんどん書いていく。(90分以上)	追加資料や参考文献の精読をしながら、書き進めていく。(90分以上)
担当教員			
第12回	論文9割完成に向かって、新たな参考文献を追加しながら、書けたところまで指導を受ける。	新たに収集した資料・文献をよく読み、どんどん研究を進めていく。(90分以上)	引用・参考文献リストを確認し、執筆を進める。(90分以上)
担当教員			
第13回	論文9割完成に向かって、新たな参考文献を追加しながら、書けたところまで指導を受ける。	新たに収集した資料・文献をよく読み、どんどん研究を進めていく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第14回	論文の9割完成に向かって、書いたところまで提出し、指導を受ける。(90分以上)	執筆を進めながら、追加引用・参考文献の整理をしておく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			
第15回	論文の9割完成に向かって、書けたところまで提出し、指導を受ける。(90分以上)	執筆を進めながら、追加の引用・参考文献の整理をしておく。(90分以上)	構成・引用等を確認し、これまでの論文の体裁をほぼ完成しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第16回	論文の9割完成を前提に指導を受ける。最終章の構成と内容を説明する。	完成した9割を提出できるようにしておく。(90分以上)	どんどん書いていく。(90分以上)
担当教員			

第17回	論文完成に向かって、書けたところまでの指導を受ける。	副指導教員にも指導を受けながらどんどん書いていく。(90分以上)	ここまでの論文全体の構成を再確認しながら執筆を進める。(90分以上)
担当教員			
第18回	書けたところまでの指導を受け、修士論文の仕上げ状況について報告する。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと。(90分以上)	指導を受けたすべての部分は、必ず加筆・修正しておく。(90分以上)
担当教員			
第19回	論文をほぼ完成した状態で、修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと。(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず再考し、文献に当たって加筆・修正しておく。(90分以上)
担当教員			
第20回	論文は完成状態であることを前提として、指導を受ける。全体の構成を含めて修正・追加が必要な部分等の確認をする。	完成論文を提出できるように見直して加筆・修正しておくこと。(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておく。(90分以上)
担当教員			
第21回	完成論文を再度修正して提出し、チェックを受ける。各章についての要約を書き、構成等の見直しを行う。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと。(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと。(90分以上)
担当教員			
第22回	書き直した論文を提出して指導を受ける。最終口頭試験についての発表スライド作成の指導も受ける。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと。また最終口頭試験の発表スライドの準備をしておく。(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと。(90分以上)
担当教員			

第23回	完成論文を再提出し、論文概要を口頭説明できるようにする。	完成論文の提出と、各章の要約文を作成しておくこと。(90分以上)	最終口頭試験のスライドに合わせた発表練習をしておく。(90分以上)
------	------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------

担当教員			
------	--	--	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	

教科書

教科書は使用しない。

参考文献

論文の書き方は、研究テーマの学会書式に従い、論文作成に関する文献等は適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

中間発表会のエントリーは論文の7割以上が完成していることを条件とする。

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(春入学者用)(高橋 保夫)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分		単位	3
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。「研究方法論A・B」「特別課題研究Ⅰ」の発展科目。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。 2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。 5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。 							
授業の方法							
基本的に個別指導で修士論文を完成してもらう。受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。							
ICT活用							
適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中間発表会に向けての準備(その1) 夏季休暇中の研究の進展を報告する。	進展報告をまとめる(90分)	指摘された箇所について調査・研究を進める(90分)
担当教員			
第2回	中間発表会に向けての準備(その2) 前回の指摘に応じた対応について報告する。	授業内発表の準備(90分)	中間発表会に向けてストーリーをまとめる(90分)
担当教員			
第3回	中間発表会に向けての準備(その3) パワーポイント発表に向けて基本的な事項を学ぶ	パワーポイントの使い方について復習をしておく(30分)	中間発表会に向けてスライドの基礎作成(150分)
担当教員			
第4回	中間発表会に向けての準備(その4) スライドを準備しながら内容と形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備(90分)	中間発表会用のスライドの準備(90分)
担当教員			

第5回	中間発表に向けての準備(その5) 発表用スライドを確認し、形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第6回	中間発表に向けての準備(その6) 発表の予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第7回	中間発表に向けての準備(その7) 前回の指摘を受け、再度の発表予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第8回	受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。	中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)
担当教員			
第9回	第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。	論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)
担当教員			
第10回	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員			

第11回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員			
第13回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)
担当教員			
第14回	公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。	論文の8割以上、完成させておくこと(180分以上)	副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)
担当教員			
第15回	発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第16回	発表会の予行演習を行う。論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)
担当教員			

第17回	発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。	論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)	構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)
担当教員			
第18回	修士論文の仕上げについて報告する。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)	論文の9割は見直しが終了しているようにする(90分以上)
担当教員			
第19回	各自が十分見直した上での論文を提出する(第一次提出)。	論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)
担当教員			
第20回	修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)
担当教員			
第21回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			
第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			

第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)	論文提出後にも指導があるので、完全な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)
------	--	----------------------------	--

担当教員	
------	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	

教科書

使用しません。

参考文献

研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(春入学者用)(魯 諍)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分		単位	3
担当教員	魯 諍						
授業の位置づけ							
<p>優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めるとともに、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけ、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。1年次に「研究方法論」科目で学んだことを活かし、「特別課題研究Ⅰ」を承ける形で連動する。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。 2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。 5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。 							
授業の方法							
<p>基本的に個別指導で修士論文を完成してもらう。 受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。</p>							
ICT活用							
<p>適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中間発表会に向けての準備(その1) 夏季休暇中の研究の進展を報告する。	進展報告をまとめる(90分)	指摘された箇所について調査・研究を進める(90分)
担当教員			
第2回	中間発表会に向けての準備(その2) 前回の指摘に応じた対応について報告する。	授業内発表の準備(90分)	中間発表会に向けてストーリーをまとめる(90分)
担当教員			
第3回	中間発表会に向けての準備(その3) パワーポイント発表に向けて基本的な事項を学ぶ	パワーポイントの使い方について復習をしておく(30分)	中間発表会に向けてスライドの基礎作成(150分)
担当教員			
第4回	中間発表会に向けての準備(その4) スライドを準備しながら内容と形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備(90分)	中間発表会用のスライドの準備(90分)
担当教員			

第5回	中間発表に向けての準備(その5) 発表用スライドを確認し、形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第6回	中間発表に向けての準備(その6) 発表の予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第7回	中間発表に向けての準備(その7) 前回の指摘を受け、再度の発表予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第8回	受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。	中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)
担当教員			
第9回	第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。	論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)
担当教員			
第10回	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員			

第11回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員			
第13回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)
担当教員			
第14回	公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。	論文の8割以上、完成させておくこと(180分以上)	副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)
担当教員			
第15回	発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第16回	発表会の予行演習を行う。論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)
担当教員			

第17回	発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。	論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)	構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)
担当教員			
第18回	修士論文の仕上げについて報告する。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)	論文の9割は見直しが終了しているようにする(90分以上)
担当教員			
第19回	各自が十分見直した上での論文を提出する(第一次提出)。	論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)
担当教員			
第20回	修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)
担当教員			
第21回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			
第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			

第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)	論文提出後にも指導があるので、完全な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)
------	--	----------------------------	--

担当教員	
------	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	

教科書

使用しません。

参考文献

研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目A					
科目名		特別課題研究Ⅱ(春入学者用)(小西 正人)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分		単位	3
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
優れた修士論文完成に向かって、専門研究を深め研究者としての研究姿勢を身につけるための科目である。「研究方法論A・B」「特別課題研究Ⅰ」の発展科目。							
授業の概要							
修士論文完成のための具体的な研究指導をする授業である。基本的に受講生が執筆／作成できたところまでを当日または前日に教員に提出し、その論文の不備や問題で指導を受けた部分を修正・加筆していく。受講生主体の指導型・研究共有型で授業を進めていく。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文提出日までに、修士論文にふさわしい内容で、3万字以上の論文を書くことができる。 2. 専門研究領域の論文の書き方にしたがって、論文を書くことができる。 3. 先行研究を批判的に読むことができる。 4. 資料収集や調査活動では人権的配慮ができる。 5. 学んだ専門研究を社会に還元できる。 							
授業の方法							
基本的に個別指導で修士論文を完成してもらう。受講生は研究テーマの先行研究や資料の収集とそのまとめを作成し、批判的読解の上で引用し、どんどん論文執筆を進めてもらう。							
ICT活用							
適宜、メールやクラウド等を用いて授業外でも指導を行うとともに、インターネット上の資料や参考サイトなどを共有する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回提出の論文執筆部分については、授業内に口頭で指導するだけでなく、課外に追加／再提出された場合はメール等でできるだけ速くコメントを添えて返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中間発表会に向けての準備(その1) 夏季休暇中の研究の進展を報告する。	進展報告をまとめる(90分)	指摘された箇所について調査・研究を進める(90分)
担当教員			
第2回	中間発表会に向けての準備(その2) 前回の指摘に応じた対応について報告する。	授業内発表の準備(90分)	中間発表会に向けてストーリーをまとめる(90分)
担当教員			
第3回	中間発表会に向けての準備(その3) パワーポイント発表に向けて基本的な事項を学ぶ	パワーポイントの使い方について復習をしておく(30分)	中間発表会に向けてスライドの基礎作成(150分)
担当教員			
第4回	中間発表会に向けての準備(その4) スライドを準備しながら内容と形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備(90分)	中間発表会用のスライドの準備(90分)
担当教員			

第5回	中間発表に向けての準備(その5) 発表用スライドを確認し、形式について学ぶ	中間発表会用のスライドの準備 (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第6回	中間発表に向けての準備(その6) 発表の予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第7回	中間発表に向けての準備(その7) 前回の指摘を受け、再度の発表予行演習を行う	中間発表会用のスライドおよび 話す内容の準備・リハーサル (90分)	中間発表会用のスライドの準備 (90分)
担当教員			
第8回	受講院生は中間発表で指導、忠告されたことをふまえてどこまで書けたかを報告する。	中間発表時の改訂版を作成しておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を改定しておくこと(90分以上)
担当教員			
第9回	第2回目の論文作成経過報告を行う。資料収集が難しいものについては、図書館で検索方法の追加演習を行う。	論文を書き進め、1章分は完成しておくこと(90分以上)	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)
担当教員			
第10回	論文を書き進め、指導を受けた部分を(90分以上)調べ、補完しておくこと(120分)	論文を書き進め、1・2章分を完成できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分の訂正・追加をしておくこと(90分以上)
担当教員			

第11回	論文の5割が「完成」してあることを前提に指導を受ける。章構成の見直しがある場合は、そのための別紙案を提出する。	論文の5割を完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文を「完成」に近づけておくこと(90分以上)
担当教員			
第12回	提出論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の6割以上、完成させておくこと(90分以上)	問題点はクリアにしておくこと。論文を「完成」しておくこと(90分以上)
担当教員			
第13回	訂正された論文の内容について質疑応答。翌週の課題を出す。	論文の7割以上、完成させておくこと(90分以上)	どんどん論文執筆を進めておくこと(90分以上)
担当教員			
第14回	公開発表会のための原稿作成およびその書き方について指導する。あわせて個々に論文指導を受ける。	論文の8割以上、完成させておくこと(180分以上)	副指導教員の研究指導を受けておくこと(90分以上)
担当教員			
第15回	発表原稿の内容・構成について話し合う。	論文発表用のハンドアウトを作成しておくこと(90分以上)	論文発表用の配付資料、プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分以上)
担当教員			
第16回	発表会の予行演習を行う。論文の論点が明解か、仮説を立証するデータか等、理路整然と伝達できる構成かを見直す。	論文発表用のパワーポイント用スライドを作成しておくこと(90分以上)	調査研究部分は、明瞭に示せるように図表化しておくこと(90分以上)
担当教員			

第17回	発表会で指摘されたことについてどこまで修正できたかを発表する。	論文の9割以上は完成させておくこと(90分以上)	構成・引用部分を見直し、論文を完成しておくこと(90分以上)
担当教員			
第18回	修士論文の仕上げについて報告する。	引用文献も含めて論文を完成させておくこと(90分以上)	論文の9割は見直しが終了しているようにする(90分以上)
担当教員			
第19回	各自が十分見直した上での論文を提出する(第一次提出)。	論文を完成させ、目次等体裁の確認して提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は、必ず文献に当たって加筆・修正しておくこと(90分以上)
担当教員			
第20回	修正・追加が必要な部分の指導を受ける。	完成論文を提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分は丁寧に加筆しておくこと(90分以上)
担当教員			
第21回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			
第22回	論文を再提出、または再々提出して指導を受ける。各章が論文全体のどこに位置するのかを明確にするための構成を確認する。	より完成度の高い論文が提出できるようにしておくこと(90分以上)	指導を受けた部分を含めて丁寧に論文全体を読み返し、問題点は直しておくこと(90分以上)
担当教員			

第23回	最終的なチェックを受けた論文を提出し、口頭試験に向けての概要作成のチェックを受ける。	論文口頭発表のための準備をしておくこと(90分以上)	論文提出後にも指導があるので、完全な論文になるよう改善しておくこと(90分以上)
------	--	----------------------------	--

担当教員	
------	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文作成のプロセスと完成度100%
その他	0	

教科書

使用しません。

参考文献

研究テーマに関する書籍や論文を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業以外にも論文指導を行うので、どんどん論文作成を進め、研究の進捗状況が報告できるようにすること

備考欄



2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 共通科目B					
科目名		国際関係論特別研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
国際協力の専門分野に関する専門的な知識および技能を身につけるための科目である。「国際関係論特別研究Ⅱ」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業では、一般に国際協力や開発援助と呼ばれている分野を中心に、そこで活動する国家、国際機関、NGO、企業などの役割や相互関係を学習する。国際協力をより立体的に理解するために、(1)背景としての貧困や紛争などの南北格差の現実(2)開発の手段としての政府ODAや国連のイニシアチブ(3)NGOのネットワークによるボランティア活動の展開、の3点を軸に国際協力のアクターと活動がもつ可能性と限界を、理論と事例の双方から包括的に検討する。また、多様な地域の現場の問題や活動などをとりあげ、日本のNGOや国内ボランティアも取り上げる。							
到達目標							
この授業の目的は、日本において漠然と「与える側」の論理から一方的に語られることが多い国際協力を、さまざまなアクターの活動と実態を学習する中で、より多面的・客観的に理解することを目標としている。具体的には、国家・国際機関・NGOなどがどのような分野で、どのような異なる役割を担い、相互に関係しているのかを理解すると同時に、その学習の中から現代の世界に山積する多くの問題の現実に触れ、現在どのような対応がなされ、将来なされるのかについての基本的知識を得ることである。また、国際協力を通じた日本と世界のつながりについての基礎的認識の確立ができるようになることである。							
授業の方法							
印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。							
ICT活用							
授業内容に関連するホームページや動画などの活用。動画等の視聴による自主学習支援							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・イントロダクション 戦後日本は戦争の反省から、外交の柱をODAを中心とした国際協力、いわゆる「平和外交」に据えた。世界情勢の変化の中でODA拠出額1位の座を明け渡したものの、引き続き主要な援助国であることに変わりはない。日本にとって、世界にとって、国際協力とは何か？を考える。学生各自の関心事をプレゼンする。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンを準備すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	・国際協力の図式 国際貢献と国際協力の違いは何か？ 紛争への軍事的介入は是か非か？ ODAとは何か？ ドナー国、途上国、国連、NGO、企業などの関係はどうなっているのか？ 国際協力をめぐる語や概念や関係図式など、国際協力を「見るための道具」を整理する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・国家レベルの援助(1)～戦後補償と日本のODA 世界銀行やIMFに次ぐ予算規模を持つ日本のJICA。日本の援助の始まりが戦後補償の賠償庁であることや、JICAの前身となった組織がとても小さかったことは、あまり知られていない。日本のODAとJICAの活動の変遷から、日本の国際協力を考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	・国家レベルの援助(2)～世界のODAと日本 日本のODAは拠出額では、世界有数の規模を誇る。しかし、GNPに占める割合は北欧を中心とした主要な欧米各国に遠く及ばない。ODAの国際比較から見えてくるのは、各国の国際協力の目的と思想の違いであり、ひいては外交のあり方の多様性である。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	<p>・国家レベルの援助(3)～北欧の国際協力と国連・NGO 資源に乏しく大規模製造業のない北欧諸国は、厳しい自然環境の中から、独自の国際協力の考えを持つ。教育の2大柱が民主主義と国際理解である北欧諸国にとって、国際協力とは自国の環境を左右する世界の安定と平和を確保するという現実主義で行われている。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
担当教員			
第6回	<p>・国際機関レベルの援助(1)～国連の歴史とイニシアチブ 国際協力の分野においても、多国間協力のイニシアチブや調整において重要な役割を担っている国連は、同時にNGOを国際協力の国際的プレーヤーに育て上げた張本人でもある。国連の諸機関と活動について、平和・人権・環境・開発の4つの視点から整理して理解する。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
担当教員			
第7回	<p>・国際機関レベルの援助(2)～援助の金融化 戦後の国連を中心とした国際協力の舞台は、信託統治領の問題と経済社会理事会の話し合いの場から、開発援助の資金が集まる世界銀行とIMF(国際通貨基金)の2つの国際金融機関にシフトする。金融化する国際協力を学ぶ。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
担当教員			
第8回	<p>・NGOのボランティア活動(1)～市民の台頭 NGO、Non-Governmental Organizationは外務省の公式な訳では「非政府組織」となっているが、その実態は国境を越えた市民の国際協力のネットワークである。ここでは、NGOの歴史と変遷、またどのようなNGOがあるのかなどを学ぶ。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
担当教員			
第9回	<p>・NGOのボランティア活動(2)～欧米主導の市民運動 グローバル化の1つの幻想は、世界が均一につながり発展するという図式である。よりつながる国や人々とそうでない地域との格差は、国際協力の分野でも同じである。NGOの分野においても欧米のイニシアチブは巨大だ。</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
担当教員			
第10回	<p>・NGOのボランティア活動(3)～日本のNGO 日本において本格的にボランティアやNGOの概念が広まったのは、阪神淡路大震災以降であるといわれている。しかしこの日本の「ボランティア元年」以前から、欧米よりは小規模であるが日本のNGOによる国際協力はアジアを中心に着実に成果をあげてきたことを学ぶ</p>	<p>レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)</p>	<p>配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)</p>
担当教員			

第11回	・国際協力の分野(1)～絶対的貧困と飢餓 人間の安全と幸せにとって衣食住、特に食料は死活問題である。世界で最も食料を輸入し、その食料を育てる水を世界で最も消費している日本から、貧困と飢餓に対応する諸アクターの取り組みを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・国際協力の分野(2)～紛争・難民と「人道的介入」 憲法9条によって国際紛争への介入を禁じられている我が国は、イラク戦争まではPKOやPKFといった国連の枠組みのなかで、紛争調停や復興支援に参加してきた。さまざまな制約がある中で、日本は紛争予防と解決にどのように参画すべきなのか、国際的事例から学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	・国際協力の分野(3)～環境と生物多様性の保護 NGOの重要な役割の1つとして、先進国の経済活動が世界各地でどのような影響をもたらしているのかについて告発す機能がある。環境分野の国際協力から、この問題と私たちの生活との密接なつながりについても学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	・小論文とこれからの国際協力のあり方を考える 小論文の執筆と提出によって授業内容の学習の理解度と、各学生の考える自由な国際協力の在り方をまとめてみる。最後に、授業の復習・まとめとクラス全体のディスカッションにより、学んだこと、そしてそこから何が考えられるのか練り上げる。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ 学生の皆さんから出された、いろいろな形の国際協力論から、私たちが世界をどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>なし</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>国際協力と世界の諸問題の現状に、強い関心のある学生の履修を歓迎します。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中国学特殊研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	野間 晃						
授業の位置づけ							
<p>本課程は一年級の选修課、通过一个学期的学习有可能取得相应的学分。目的是通过阅读各个时代的作品，提高选修者的汉语水平，同时理解社会的变革过程。「中国学特別研习」含多个课程，本课程仅仅涉及文学方面，关于其他课程，请参考其他老师的教学大纲。本课程体现本研究科的一贯教学方针，力图丰富学生的国际化科学研究知识，强化相关技能。学生获得与每个领域所针对的专业领域相关的专业知识和技能。</p>							
授業の概要							
<p>本讲通过20世纪文学的发展观察文学与社会的关系。内容是20世纪50年代初到21世纪10年代末的中国文学，但研读方向不是纯文学，而是文学与社会的关系，文学所受影响以及有关的文学社会学的理论问题。</p>							
到達目標							
<p>①达到熟练阅读理解现代文学作品的水平。②通过精读现代文学名篇，学会深入地阅读作品。同时，试着学习文学研究的方法。③通过比较不同研究者、评论家的见解，可以更为深入地理解原作。</p>							
授業の方法							
<p>基本方式是阅读、讨论、提问、深思、讲解。通过共同学习、逐步提高阅读和理解能力。同时使用多媒体方式进行教学，如印刷物、PPT、OHC、DVD录像。同时要求学生利用网络掌握丰富知识。</p>							
ICT活用							
暂无							
実務経験のある教員の教育内容							

无			
課題に対するフィードバックの方法			
针对作业的问题提出意见, 对学生的问题予以答复。根据学生提出的作业, 发现优缺点, 及时指出, 助其扬长避短, 迅速提高。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	概论: 现代文学的意义及价值。课前两小时以上预习, 课后两小时以上复习。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第2回	丁玲从《莎菲女士的日记》到《太阳照在桑干河上》看社会主义教育的效果。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第3回	周立波《暴风骤雨》《山乡巨变》看50年代长篇小说的意识形态化。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第4回	艾青《大堰河——我的保姆》到《光明的赞歌》看现代诗的颂歌化发展。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			

第5回	王蒙《青春万岁》《组织部来了个年轻人》以及胡风作品看政治对文学的巨大影响。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记,尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第6回	杨朔《三千里江山》为例理解战争文学的趋向。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记,尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第7回	孙犁《白洋淀纪事》为例观察唯美的散文作品以及所谓的“诗体小说”所含有的潜在态度。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记,尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第8回	刘宾雁纪实文学《人妖之间》,徐迟报告文学集《哥德巴赫猜想》,苏晓康长篇纪实文学《河殇》为例理解现实主义文学家的使命感及奋斗态度。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记,尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第9回	从张贤亮《男人的一半是女人》《绿化树》理解改革开放的多面影响。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记,尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第10回	金庸《射雕英雄传》看武侠小说与商业文学的现代发展。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记,尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			

第11回	残雪《突围表演》及现代主义文学的地位问题。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第12回	贾平凹《废都》、《病相报告》为例理解中国乡土文学的趋向。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第13回	莫言《酒国》及获奖的原因分析。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第14回	关注高行健获奖作品《灵山》现代主义的手法, 分析获奖原因。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
第15回	课程总结。讨论本学期的收获。	按照要求准备好教科书等学习用品。(90分)	整理上课时的笔记, 尽可能将其数字化。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	重视平时作业, 小考试综合评判。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>无专门教科书。教材是各家作品。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『中国新文学大系』上海文艺出版社2009年</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>此课程是为日本学生准备的语言兼文学课程, 因此, 照顾日本同学的学习需要。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>无</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		中日言語文化特別演習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諱						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につける」ことを追求する科目である。前期科目「中国学特殊研究Ⅰ」と関連性を持つ科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は中国メディアの日本に対する報道と中国人の「日本イメージ」の形成との関連性を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、中国メディアによる日本に関する報道の問題点について議論する。合わせて日本メディアによる中国に関する報道にも触れ、比較の視座から、国際ニュース報道におけるメディアの役割を検討し、問題意識を高める。</p>							
到達目標							
<p>中国メディアの日本に対する報道の実態を理解し、中国人の「日本イメージ」の形成との関連性について説明することができる。</p>							
授業の方法							
<p>この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献についての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション ②歴史に見る中国人の日本イメージについて学ぶ。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1セッション(第2～5回)中国メディアの国際ニュース報道の構造 第2回 中国のメディア制度と変容について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回 中国メディアの国際ニュース報道の特性について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第4回	第4回 中国メディアの日本に関する報道の特性について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第1セッションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			

第5回	第5回 プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第2セクション(第6～9) 事例研究(マスメディアの日対日報道) 第6回 歴史問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第7回	第7回 領土問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第8回	第8回 日本の対中経済協力に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第9回	第9回 テレビが伝えた日本のイメージ 中国の映画やドラマの中の日本人のイメージを考察し、分析する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第2セクションの講義の内容を振り返り、興味を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第10回	第10回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、興味を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第11回	第3セクション(第11～13回)事例研究(ネットメディアと日本イメージ) 第11回 3・11東日本大震災に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 新型コロナウイルスが中国・武漢で感染が拡大する中、日本の自治体などが中国を物資支援する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第13回	第13回 動画共有サイトおよびエンターテインメントコンテンツのプラットフォーム「Bilibili動画」を取り上げ、日本に関するコンテンツを分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第3セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第14回	第14回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(40%)、期末レポート(40%)

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>プリントを配布または配信する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること(出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること)。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>無断欠席は必ず減点要素になる。</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 グローバルコミュニケーション研究科					
区分		コミュニケーション・言語文化 中国語・中国文化コミュニケーション領域					
科目名		日中言語文化特殊研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	魯 諱						
授業の位置づけ							
言語・文化に関する総合力を身につけるための科目である。							
授業の概要							
グローバル化の進行に伴い、異文化間の相互理解と共生が重要な課題となっている。この授業では、異文化間コミュニケーション (intercultural communication) の視点から、日中両国の言語・文化の交流に関する諸問題を考察し、検討する。単に日本と中国の言語・文化における共通点や相違点を見出すのみならず、両国の文化的交渉の歴史的プロセスを考察する方法も学ぶ。							
到達目標							
日中間の言語・文化交流の様々な現象あるいは論点について、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明することができる。							
授業の方法							
この授業は、教員の解説、前もって課題とした文献についての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。							
ICT活用							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション ②文化とは何か、異文化交流の視点とは何か。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1セッション(第2～7回)歴史的アプローチを用いて、日中漢字文化の「循環関係」を考察する 第2回 音読み(呉音と漢音) 日本語の漢字の音読みには呉音と漢音があり、それが中国の古語に由来することを認識することは、日中言語文化のうち漢字文化を理解する基礎となる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回 簡体字比較と日本の「国字」 近代以降、日中ともに漢字の簡略化が進んだが、中国大陸がより徹底して行われ、台湾と香港と異なる簡体字文化を持つことになる。日本もまた独自の簡略化が進み、中国人の読めない日本の漢字、例えば「売」「仏」などが生まれた。 そして、日本ならではの文化を、中国にはない漢字で表現するために、日本人は独自の和製漢字「国字」を作り出した。「鰯」など魚に関するものや、「峠」「凧」など気候風土に関するものがあげられる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第4回	第4回 ローマ字化運動の歴史 日中ともに近代化の過程で、複雑な漢字が障壁になるとの意見が出され、ローマ字化の動きを経験したが、結局は文字が担った文化の重さが再認識され見送られた。PCの普及による文字入力も、独自の方法によって漢字文化が継承された。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第5回	第5回 近代の翻訳語と外来語 近代において西洋の概念を翻訳する際、「四書五経」に親しんだ当時の知識人(旧武士階級)が中国の古典から多くを引用し、かつ中国がそれをスムーズに受け入れたことは、日中漢字文化の循環関係を示す顕著な例である。「権利」「科学」「哲学」「社会主義」など、その数は1000を超えといわれる。しかし現代では、日本においては欧米の先端科学技術や文化の外来語を中心にカタカナの多用が目立つ一方、中国では意識が主流である。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第6回 書籍の里帰り 中国で散逸した文献が日本で保存されていることは、漢字文化を共有する日中間の循環関係を如実に物語る。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第7回	第7回 インターネット時代 インターネットによって瞬時に情報が行き交う中、日中間で漢字の共有も急速に進んでいる。「元気」「居酒屋」などの日本語はすでに中国の日常語として定着している。日本でも一部若者の間で「偽中国語」が使われ始める。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第8回	第8回 プレゼンテーション I 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第9回	第2セッション(第9～13回) 日中の文化的事象について考察する(受講生の関心に沿って、テーマと内容を変更することがある)。 主に日本人と中国人の行動様式、またはそれらの背後にある価値観の考察に力点を置く。 第9回 食文化 例:なぜ和食はユネスコ無形文化遺産に登録され、世界三大料理の一つである「中華料理」はされていないのか? ⇒中国の多様な地方文化について考える。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第10回	第10回 生活文化 モバイル決済、お化粧品など現代若者に親しみやすいテーマを扱う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第11回	第11回 祝祭日 日本の季節や農耕、通過儀礼に関する祝祭日の多くは中国に起源を持ち、日本で土着の風習と混じり合い継承、発展してきた。節分の豆まきや雛祭り、五月の節句、七夕などのほか、成人式、還暦の祝いなど。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 「対」の中国文化と「非対称」の日本文化 中国では「はい」は「対」、春節の飾りも「対聯」、世界の構造を説明するのも「陰陽」の対が用いられる。一方、日本では「わびさび」や茶道華道に代表されるように、自然そのままの非対称、不完全、未完成が重んじられる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第13回	第13回 日中の文学 日清戦争以前は日本は中国から影響を受けることが多かったが、日清戦争以降は、中国人の日本留学をきっかけに、日本文学が中国文壇に影響を与えることが多くなった。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第14回	第14回 プレゼンテーションⅡ 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ: 講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20%)、文献の報告及び口頭発表(30%)、期末レポート(50%)

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>プリントを配布または配信する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>無断欠席は必ず減点要素になる。</p>		